

青木はピザの注文をするために、ピザ屋に電話をかけた。

「ありがとうございます。ピザラ磯子店です」

「注文をお願いしたいんですけど」

「ありがとうございます。それではご住所とお名前とお電話番号をお願いします」

「横浜市磯子区磯子一―一四十一アサヒハイム一〇二号室の青木です。電話番号は、八―一―一〇一五です」

「確認させていただきます。ご住所が横浜市磯子区磯子八―一―四十一アサヒハイム一〇二号室の青木様ですね。お電話番号が八―一―一〇一五でよろしいでしょうか？」

「はいそうです」

「それでは、ご注文をお願いします」

「イタリアンバジルのLサイズを一つと、オレガノチキンのLサイズを一つお願いします。それに追加のトッピングをお願いしたいんですけど、イタリアンバジルの方にエビとイカとエクストラチーズを・・・オレガノチキンの方には、アスパラとオニオンのトッピングをお願いします」

「はい、かしこまりました。生地タイプは薄型のクリスピーと厚手のハンドトスがございますが、どちらがよろしいですか？」

「薄型をお願いします」

「かしこまりました。それから、ただ今キャンペーンをやっておりますので、ピザMサイズで一本、Lサイズで二本、ドリンクをサービスさせていただきます。お客様の場合一サイズ二枚のご注文ですので、ドリンクが四本サービスになりますが、いかがでしょうか？」

「どんな種類があるんですか？」

「オレンジジュース、ウーロン茶、ココ・コーラ、アイステイの四種類がございます」

「では・・・オレンジジュースを二本にウーロン茶とアイステイを一本ずつお願いします」

「はい、かしこまりました」

「時間はどれ位かかりますか？」

「磯子一丁目でしたら三、四十分位でお届けできますが、道が混んでいますと、もう少しお時間がかかるかもしれません。大体、一時位迄にはお届けできると思いますが、よろしいでしょうか？」

「構いません」

「かしこまりました。それでは、代金のほうが八、二〇一円になりますので」

「あの、折込チラシに入っていた割引クーポン券は使えますか？」

「はい、お使いいただけます。Lサイズのピザが一割引になりますので、後ほど代金と一緒にお出しください」

「わかりました。ではよろしくお願いします」

受話器を置いて数十分後、青木家のインターホンが鳴った。一時よりも大分早い配達に感心しながら、青木は玄関の扉を開けた。